

学年・実施時期

1 年

教科・科目

現代の国語

7 月

単元

『羅生門』芥川龍之介

発問する場面

『羅生門』を最後まで読解し、テーマの一つである「人間のエゴイズム」の是非について話し合った後、サブ資料として「貧困は自己責任なのか」（湯浅誠）を読ませて考えさせる。

思考を深める問い

「下人」が盗人になってしまったのは自己責任と言えるのか。

ねらい・効果

「下人」の利己的な行動については、ほとんどの生徒が不可と考え、「下人」を悪ととらえる。そこに「貧困」について、定義・考察したサブ資料を与えることで、サブ資料にそって『羅生門』をとらえ直す複合的な読みが期待できる。また、視点を変えて「下人」の状況・行動を検証し直すことで、同じ事象でも視点を変えるだけで、その価値・判断は変わるということに気づくことができる。

生徒の反応（いずれかに○をつけ、追加で説明が必要があれば記入）

思考がよく深まった（ ） 思考が少し深まった（ ） 深まらなかった（ ）

（追加説明）「恒産有りて、恒心有り」（『孟子』）、「衣食足りて礼節を知る」（『管子』）という言葉、また刑法の「緊急避難」の考え方も紹介し、道德・福祉・法、また人民、為政者という価値観・立場の違いによるとらえ方の違いについても考えた。生徒たちが、「困ったら悪事を行ってもいい」という結論にならないように留意した。

添付資料等（図や写真、URLなど参考になるものがあれば添付）